

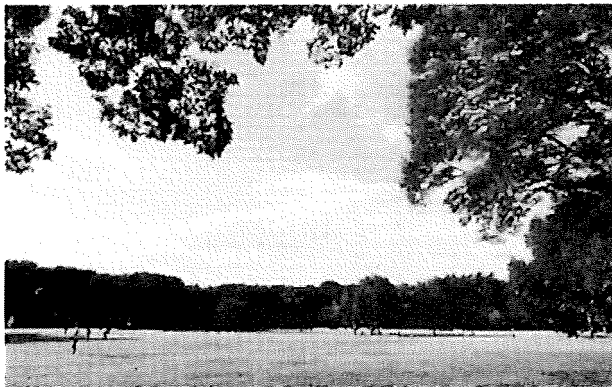
# 小金井武蔵野の中心？

## 文人の武蔵野

並木仙太郎はその著書「武蔵野」で「思ふに武蔵野の名先づありて後武蔵国の名出でたりしにや」として、「ムサシノ（ムザシノ）」は武蔵国の成立よりも以前にあった呼称である、という問題提起をしました。

「武蔵国が先か武蔵野が先か」という問いに対しては、既存の辞書類が武蔵国を基準にしているので、武蔵国の成立以降に武蔵野という呼び名ができたと思われています。しかし、根拠に基づき実証でき

### 並木仙太郎 ②



小金井市や小平市などにまたがる都立小金井公園。武蔵野のイメージが残る

る定説というわけではありません。

ある地域を名指す言葉として、「武蔵」という漢字（文字言語）よりも前に「ムサシ

（ムザシ）という呼び方（音声言語）があったのは確かなことです。そして、国名をその表記とともに定める際には漢字2字で記すという条件がありましたので、仮に国名として「ムサシノ（ムザシノ）」が候補に挙がったとしても、「ノ」をつけて「武蔵野国（ムサシノクニ）」とする選択肢はありませんでした。武蔵野が先だとする説にしても、資料に基づき実証することが出来るわけではありませんが、並木の問題提起に基づき推測することは可能です。

広辞苑では、「広義には武蔵国全部」が武蔵野の範囲だとしていますが、武蔵野は、武蔵国も武蔵野台地も包摂する、より広い概念です。

並木もまた、武蔵野の範囲については「何方より何方までを呼んで武蔵野と云ひしかは、今定かならず」としています。その上で、「現今尚武

蔵野の俤を止めて、古への情致を存するは、武蔵野村より、小金井、国分寺の辺りを中心として、北は久米川より、南は多摩川に至る一面の平野ならんか。されば今武蔵野といはんは小金井を中心として限りを立つるをもて至当とすべしか」と主張し、武蔵野の中心を「小金井」に見定めています。

武蔵野の範囲で考えるなら、中心は国府が置かれた府中ということになります。それに対して並木は、武蔵野の起源を武蔵国以前に遡り、武蔵野の今をとらえ、その中心に小金井を据えたのでした。（武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍）

過去の連載は、読売新聞オンラインでお読みいただけます。スマートフォンはQRコードから。